隣近所から拡がるEMの環
～福岡県大牟田市～

取材／村上

地域に根ざしたEM活動を

福岡県大牟田市はかつて炭鉱町として栄え、三池炭鉱関連施設等は世界遺産候補である。同市は病院施設も多く、今回ご紹介する福岡県世話人・森時男氏もその中の大牟田記念病院に勤めている。

森氏とEMの出会いは、農業高校の教員をしていた時に大牟田市雇用開発センターの理事をしており、新任理事に生ゴミバケツとボカシが配布されたのがきっかけである。直ちに学校の食堂等の残渣を利用し、畑等でさまざまな活用を実践し、その良さを実感したとのことである。

▲EM希釈液を畑に撒く森時男氏

現在はEM環境蘇生研究所を主宰し、「EM最新講座」の実施や内外から依頼される研修や講習の講師である。実践的な行動に基づく講習は、多くの賛同を得ており、遠くは山口県や長崎県からも依頼が来るほどである。また大牟田市で実施され、U-net通信vol.17、vol.20、vol.23でも紹介した有明海「EMジャブジャブ作戦」へは当初から参加しており、意欲的に河川や土壌の浄化活動にも取り組んでいる。

主な活動としては大牟田記念病院が支援する小野堤の浄化活動や、リネン工場の浄化槽へのEM活用、また福岡県の有形文化財清水寺の「本坊庭園」の浄化と幅広く展開されている。現在白銀第二公民館長として、市営住宅のベランダを活用し、プランターによる花のまちづくり計画など、経歴と人脈を生かした大きな活動を展開している。

今後の目標は行政と連携した事業を展開したいと考えており、市の環境部とも協議中である。熊野神社の落ち葉を市が管理する公民館内で処理をEMで行い、腐葉土で作ったEM野菜を持参してのお年寄り宅訪問を始めている。この様に自治体などの既存のコミュニティーにEMによる活動が浸透していけばEMを使うことが当たり前という、素晴らしい未来も近いのかも知れない。

※1森時男氏の詳しい活動内容はホームページをご参照下さい。
(HYPERLINK "http://0944.emkankyousosei.net/" http://0944.emkankyousosei.net/)
※ 2U-net通信の過去ログは
(HYPERLINK "http://www.unet.or.jp/" http://www.unet.or.jp/)

不耕起でおいしいEM野菜

荒木寿治氏は森氏を先生と慕う畑仲間である。荒木氏は、古くからEMを知っていたが、実際に使ってもなかなか成果をあげられず悩んでいた時に隣の畑で作業をしていた森氏に相談をしたのが本格的なEM活用のきっかけだった。実際に土づくりからEMの活用を重ねていくことで満足のいく成果を得ている。荒木氏の畑は小規模だが不耕起栽培の美しいモデルといえるものであった。システマティックに整頓された畑は栽培中と醗酵中の部分が区分けし扱い易い様に成っており、作業の簡略化と雑草対策を巻物のようにブルーシートを使うことでうまく両立させていた。荒木氏は「EMで育てた野菜は味も持ちも一番だ、この野菜で家内にケチャップやソースも作って貰うから他の物ではもう満足できない。」また、「EMを本格的に使用してから今までより作業が楽になった。」と嬉しそうに語る。

▲収穫に喜ぶ荒木寿治氏

▲不耕起と雑草対策を両立させた荒木氏の畑

■映画「蘇生」制作準備中!

「共生」の理念に基づく新技術や研究活動を広く紹介することをテーマに映画の制作を続けてこられた白鳥哲監督が、次回作「蘇生」に向けて準備をされています。

白鳥監督は環境問題を解決するには微生物の力を引き出すしかないと考え、人類の祖先でもある微生物と共存する社会こそが望ましい理想像であると提唱しておられます。

今回私たちにもなじみ深い「蘇生」というタイトルが付けられているように、白鳥監督は、地球蘇生へのプロセスにおいてEMの果たす役割にも大変注目しておられます。同時に比嘉照夫教授の研究者としての姿勢や社会貢献活動にも着目しておられ、前作の「祈り」において筑波大学名誉教授村上和雄氏が主要な位置付をされていたのと同様に、映画「蘇生」においては比嘉照夫教授が大きく取り上げられることと思われます。

現在、比嘉教授へのインタビューを元にした予告編がYouTubeで公開されています。

また、監督のWEBページにて映画「蘇生」のコンセプトが紹介されています。

・地球ヴィジョンクリエイター　白鳥哲　http://tetsushiratori.razor.jp/home.html
なお、同時に「蘇生」制作にあたってのチャリティー基金も募集しておられます。詳しくは白鳥監督のホームページをご覧いただくか、WEB接続環境が無い会員様におかれましてはU-ネット事務局までお問い合わせください。
・映画「蘇生」チャリティー基金　http://tetsushiratori.razor.jp/sosei/index.html

理事長就任にあたって

比嘉照夫

特定非営利活動法人 地球環境・共生ネットワーク(Uーネット)第14回通常総会において、組織ならびに定款の変更が承認されました。それに伴い、従来の運営委員会体制から理事会体制となり、新しく理事が決まり、私が理事長に選任されました。

この変更は、東日本大震災復興支援ＥＭプロジェクトの強化と善循環の輪の集いの更なる展開やＥＭの社会化を、より積極的に進めるために、数年前から浜渕委員長から要請があった案件です。

御承知の方々は少なくなりましたが、Uーネットは、私が地球環境財団の理事長の就任にあたってスタートしたＥＭによるボランティアの環境活動を行なう環境推進委員会が母体となっています。浜渕さんにはその委員長を引き受けていただき、様々なプロジェクトを発足させ活発な活動を展開してもらいました。

平成9年、私の理事長辞任にあたって、環境推進委員会を解散することになりましたが、浜渕さんは、これまでの活動を更に発展させるため、すべての責任を負う形でNPO法人すなわち、現在のUーネットを立ち上げ「見返りを求めないボランティアが世の中を変える」という錦の御旗の下に、今日最も社会に求められているNPO活動を全国規模で展開できるように育て発展させてくれました。

あれから16年、浜渕さんも80歳の半ばに達し、頭はますます冴えてきましたが、東日本大震災の対応、特に20～30年、更にはそれよりも長期戦となる福島の放射能対策等々かなりの激務となってきました。この状況を少しでも楽になってもらうために、更に今後の活動をより充実させるために、今回の定款変更が行なわれたのです。

したがって、従来の運営委員は全員理事にお願いし、新たに執行委員を発足させ、全国規模となった本会の運営を更に効率よく行なう体制に変更し、浜渕さんにも執行委員をまとめる役に就いてもらいました。

理事長就任にあたって、これまでの経緯を明確に踏まえつつ、ここまでUーネットを充実発展させた浜渕さんの功績に改めて敬意を表し、心から感謝申し上げます。

今後は、Uーネットの行動指針「後から来る者のために」を更に徹底したいと考えており、全員の皆様方の独創的な活動を、より積極的に支援し、名実共に国を変えるNPOとして全力投球で事に当たりますので、これまでと変わらぬ御協力を期待しています。

information
事務局からのお知らせ

■Uーネット運営体制の変更について

上段の比嘉教授のメッセージにございますように、2月23日の通常総会におきまして、Uーネット運営体制の変更が承認されました。主な変更点は以下の通りです。

① これまで運営委員と称していた役員の呼称を登記と同じ理事といたします。
② 当法人の新しい代表として、比嘉教授が理事長に就任いたしました。
これにより会長職は廃止となりました。
③ 理事長の補佐機関として、執行委員会を新設いたします。理事長により執行委員の人選が行われ、右記7名の理事が就任いたしました。
④ 沖縄事務所を閉鎖いたします。
以上を受け、現在事務局では登記・定款の変更手続きを行っています。

新任の執行委員・理事

氏　名	主な担当分野
浜渕　隆男	事務局、河川浄化、総括
福田　昭夫	EM畜産振興プロジェクト
吉澤 文五郎	善循環の輪、復興支援プロジェクト
大山　正治	広報担当リーダー
東市　篤実	S・EM研究会
小川　敦司	東海北陸地区世話人、EMの日プロジェクト
山下　浩	九州地区世話人

■今後の主要行事のご案内

- ●善循環の輪・福島浜通りの集いinいわき　日程 4月29日(月・祝)　会場 いわき市総合保健福祉センター
- ●善循環の輪・大阪の集いin吹田　日程 5月25日(土)　会場 山田ふれあい文化センター
- ●善循環の輪・福岡の集いin大牟田　日程 6月1日(土)　会場 大牟田文化会館
- ●善循環の輪・神奈川の集いin平塚　日程 6月29日(土)　会場 平塚プレジール

■防衛大臣より感謝状授与

3月6日(水)、陸上自衛隊那覇駐屯地におきまして、名桜大学国際EM技術研究所 比嘉照夫教授ならびに(株)EM研究機構に、防衛大臣特別感謝状が授与されました。両者は、東日本大震災の災害派遣に従事した隊員への支援活動が認められ、このたび受賞の運びとなりました。

〈NPO〉地球環境・共生ネットワーク発行
U-net
United Networks for Earth Environment
U-net通信 2013年4月 Vol.74
平成25年 4月8日発行(隔月1回発行)

あとから来る者のために　坂村　真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦労をし
我慢をし
みなそれぞれの力を植えておくのだ
あなたがたがあとから続いてくる
あの可愛らしい者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくのだ

発行：地球環境・共生ネットワーク　〒105-0014　東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F　TEL:03-5427-2348　FAX:03-5427-5890　http://www.unet.or.jp　編集人：大山正治／発行人：浜渕隆男

若い世代にもEMによる環境改善や食の安心・安全が着実に拡がる大阪

取材／大山

なにわの心意気を見せた「大阪湾再生市民サミット」が平成18年2月に開催され、大阪のEMによる河川浄化活動が広く全国に知れ渡った。道頓堀川などへのEM大量投入で素晴らしい成果が脚光を浴びた大阪、現在も大阪府内多くの河川で浄化活動が着実に進行している。今号では、大阪府の河川浄化活動など環境改善事業と食の安心・安全に関心の高い若い世代にも確実に拡がりをみせるEM食材の生産と供給について、大阪府世話人の三重野紘一氏と岸隆美さんの案内で、最新の状況をご紹介する。

▼天の川支流の新安居川で活動する「天の川を清流にする会」の若きメンバー(右)と同会長でUーネット大阪地区世話人の増本勝久氏(左)

▲淀川のワンドをEMボカシで浄化を進める岸正基・隆美さんご夫婦(左・中)と三重野紘一氏

◀長瀬川に元気玉を投入する東大阪市民環境会議とEMボカシネットワーク大阪の方々

伝説“天の川”復活を目指して
枚方市　天の川を清流にする会

天の川を清流にする会(増本勝久会長)は、枚方市を流れる天の川とその支流新安居川を大阪府や枚方市からアダプト・リバー制度で河川浄化や河川清掃を委託されている。

毎月１回の清掃及びＥＭによる水質浄化活動が主体で、環境に関心の高い若い世代も多く、会員数は約１００人。天の川の清掃浄化活動は地元企業の若者も多く参加して行われている。ＥＭによる水質の浄化と共に川に投げ捨てられたバイクや自転車など粗大ごみの引き上げも行われているので、親子で水遊びできる格好の水辺空間だ。天の川の支流新安居川は３面護岸で覆われ、かつては臭くて近くに寄れない苦情の川だったが、今では全く臭いがなく水も川底まで透きとおるほどになっている。支流が浄化され本流の天の川も浄化が進んでいるので、七夕伝説“天の川”の復活も近いだろう。

淀川のワンドでもシジミ獲りを
NPOよみがえれ!かんきょう

ＪＲ塚本駅近くの高架下を流れる淀川のワンド(湾所)には黒いヘドロが堆積し悪臭が漂い生き物はいなかったそうだ。このワンドに約５年前からＮＰＯよみがえれ！かんきょうのメンバーで大阪府世話人の三重野紘一氏や岸正基氏らが毎週、活性液・元気玉・ボカシを投入している。特色はＥＭボカシ３０kg入りの紙袋をワンドの砂の中に埋め込む方法だ。今では黒いヘドロが消えてきて砂地が見えて葦も生えてきている。水鳥も寄るようになってきた。しかし、まだシジミは獲れない。淀川で獲れるシジミは味が良く色がべっ甲色の「ナニワベッコウシジミ」だ。近くの淀川河川敷きでは今年１０回目になる「淀川で“しじみ”獲り」イベントが開催され多くの人々に喜ばれている。メンバーの方々は、このワンドでもシジミが獲れるようにと願っている。

みんなで地域に親しめる川に
東大阪市　長瀬川

長瀬川は水害対策から造られた農業用水路が元だが、東大阪市内を流れる約7㎞は都市の水辺オアシス空間「長瀬川いきいき水路」として親しまれ、平成18年には周辺住民の環境改善活動が評価され大阪府で唯一、国の「疎水百選」に選ばれている。

東大阪市は作家・司馬遼太郎の生地で、司馬が好きだった菜の花を街中に飾る活動も根付きつつある。これも地域の環境改善につながるものと期待されている。

長瀬川の管理は地元の築留（つきどめ）土地改良区で、これに協力してＥＭによる河川浄化活動を進めているのが東大阪市民環境会議（阿蘇紀夫代表）とＥＭボカシネットワーク大阪（岸隆美代表）である。この活動には地元の小学校２校、近隣の人々や福祉作業所「さくらんぼ」が携わっている。ＥＭを投入している下流の方が上流より水が澄んでいるという。

神崎川・安威川を水鳥のサンクチュアリーに
吹田市　環境レスキュー・オーサカ

神崎川や支流の安威川は、経済発展と共に川沿いに企業や住宅などが進出し排水や生活雑排水で黒く濁り悪臭を放っていた。平成12年のことだが、神崎川はダイオキシンの底質環境基準値（1ｇあたり150ピログラム）を超える全国14か所の一つに入ってしまった。これではと立ち上がった環境レスキュー・オーサカ代表の中原準氏は、川周辺の住民や団体に働きかけてＥＭによる河川浄化活動を呼びかけ実施してきた。生活雑排水で汚れていた味生水路は安威川の支流だが、平成16年から定期的にＥＭ活性液とダンゴを投入している。今では花菖蒲が咲き、水も澄み悪臭もないので沿道は周辺住民の散歩道になっている。中原氏の想いは神崎川や安威川を水鳥のサンクチュアリーにしたいことだと。

▲神崎川、安威川の浄化活動リーダー
中原準氏、味生水路で

EM食材がすぐ完売、予防医学の話も
東大阪市　えこ楽市

東大阪市の八戸ノ里駅近くの広場で「えこ楽市」が毎月開催されている。東大阪市民環境会議が主催して４年になる。ＥＭ栽培の野菜やのり・卵などを持ち寄る小さな市だが、開始後３０分以内で完売してしまうほど大好評。ここの特色は、医師の西村章氏が自分の畑で栽培するＥＭ野菜を売り、その後、市に来たお客さんに予防医学のお話をすることだ。

▲えこ楽市で食材の重要性を話す
西村章医師（中央）

３月の市では、ビニールハウスで農薬・化学肥料を使用し栽培した農作物には高濃度の硝酸塩が含まれているので、がんや糖尿病を引き起こす危険性があるとの話だった。

西村医師は自ら医食同源の「食農医（医師・エコファーマー）」を名乗り、無農薬有機栽培で旬の野菜を食べる重要性を説いている。また、無農薬有機栽培を色々試したがＥＭが一番良い資材だとも、西村医師は話してくれた。

EM野菜を作ってディズニーランドへ
東大阪市　福祉作業所さくらんぼ

生駒山の麓に福祉作業所さくらんぼ（指導員：井手幸枝さん）の権坊池農場がある。ここの作業所で８人と指導員の方々が元気玉（ＥＭダンゴ）作りやＥＭ栽培の野菜や果物を育てている。育てた野菜や果物を使ってのジャムやからしも味噌の加工品も作られている。栽培された野菜や果物、加工品は、農場の直売所・えこ楽市・キリスト教会・中之島祭りなどイベントで販売していて美味しく安全なので、ほとんど完売するという。お客はリピーターが多いという、早くの完売がこれを証明していると思う。これらの売り上げを貯めて年に１回、宿泊の旅行に行くのを皆楽しみにしている。昨年は鳴門の渦潮を見に行き、今年は２泊３日でディズニーランド旅行を計画している。

▲福祉作業所さくらんぼの権坊池農場直売所

店の内装、清掃、食材すべてがEMで元気に
吹田市　カフェダイニング　オリビオ

吹田市千里ニュータウン一角のビルの地下に、カフェダイニング「オリビオ」がある。店に入ると、さわやかな空気が感じられる。壁面や天井にはＥＭ珪藻土の壁、障子の和紙もＥＭ入りだ。地下にも関わらず観葉植物や苔が青々している。清掃や水やりにもＥＭ活性液を使用、店内には朝昼晩と３回ＥＭＷを噴霧しているという。もちろん食材はＥＭ栽培の野菜や米で肉・麺もＥＭ使用のものだ。食事にはＥＭＸゴールドを吹きかけるほどの徹底ぶり。全部ＥＭ食材で作った特製のラーメンを食べたが今までに食べたことがない食感で美味しかった。また、スタッフのほとんどが、仕事が終わっても疲れないそうだ。

▲ＥＭ食材を用いた評判のラーメンを前に
「オリビオ」の竹井三和子さん

平成25年 4月8日発行(隔月1回発行)　http://www.unet.or.jp

得手を活かしたEM活用/活動で本領発揮
～久々の“善循環の輪　神奈川の集い”開催で、再び連携深まるEM仲間達～

取材／杉山

横須賀市(2008年)での“善循環の輪　神奈川の集い”以来の神奈川県では第2回目になるビッグイベントを控え、各地で拡がるEM活動の実態に迫る。この5年で善循環の輪に登録されたグループは増加傾向にあり、静かだが確実にEM活動は拡がりを見せている。今回はその独自のEM活用/活動の最前線を取材した。

精力的にEM環境学習をするEM普及活動研究会
神奈川県川崎市

EM普及活動研究会の吉田賢治代表の「米のとぎ汁発酵液」を作る環境学習は、川崎市立田島小学校で行われた。62名の４年生が参加した授業では、まず、吉田代表がEMの説明と味噌、納豆、ヨーグルト等の食材中にEMの仲間達が居る事を説明。すると初めは不安そうであった生徒達の表情に変化が現れて来るのが分かる。不安は興味に変わり熱心に吉田代表の話に聴き入っている。生徒達の興味が目の前の実習材料に移ったところでこの日の実習開始。分銅式秤に10ｇと20ｇの分銅を載せ、EM資材で器用にバランスさせる眼差しや手付きは真剣そのもので、各自が持参した2本の2Lペットボトルに入れる所定の作業は、4名のEM普及活動研究会員の応援を得て進んだ。実習終了後に吉田代表からこれより米のとぎ汁を入れる家庭での作業の注意点を聴いて約1時間の授業は終了。後日、出来上がった「米のとぎ汁発酵液」は、プール清掃や花壇で使用するが、完成までの2週間で行う“ガス抜き”実習でもEMの力を実感する事となる。

▲田島小学校で熱弁を揮う吉田賢治氏

▲真剣な眼差しで実習する4年生達

同研究会の環境学習事例は28校で、今年も4校以上で計画中と言う。また、毎年74校の小学校にトイレ消臭用EM活性液の無償配布活動や、市内にある60か所以上のこども文化センターでのEM石鹸、EM団子、米のとぎ汁発酵液作り活動等、小学校や地域に密着した活動として注目を集めている。

NPO樹木医協力会によるEM生態系再生活動の最前線
神奈川県中郡二宮町

中郡二宮町は人口約3万人で多くの梅園がありシーズンともなれば観光客が多く訪れるところ。町内を流れる葛川は、今や立派な観光資源になり町民の誇りに変わった。

悪臭漂う葛川の浄化は町民の悲願でもあったが、NPO樹木医協力会(本部横浜市)の副理事長を務める長谷川芳男氏(U-ネット・理事/神奈川世話人)が仲間の樹木医や造園家、町民に呼び掛けて始まった。葛川浄化とその環境の桜並木の樹勢回復活動は早10年が経過。平成15年からは百倍利器によるEM活性液造りが軌道に乗り、併設の大量培養装置(1tタンク6基)からの上質なEM活性液の規則的な大量投入で葛川は浄化され今日に至っている。50cm以上もあったヘドロが無くなり川砂や小石が川底に見える。当然、水質改善もされ悪臭も消え、町民の自然を守る活動がゴミの無い葛川を誕生させた。そんな葛川の石組土手下部の変色が、当時の汚染度合を知る唯一の手がかりとなっている。

▲浄化され昔の面影が漂う葛川

この葛川の上流にあるせせらぎ公園でもEMによる自然循環型の浄化活動を行った結果、自然にカワニナが発生し、蛍も毎年飛ぶようになった、と言う。昔、蛍が生息していた場所で自然環境が回復すれば、自然発生的に蛍は飛ぶようになるそうだ。養殖蛍を飛ばしても、持続的自然環境が整わなければ長続きはしない。蛍が住めなくなった原因を取り除く事が、結局は河川浄化や海の浄化に繋がると説く長谷川氏。これまでの実績が示すように実に響きのある力強い言葉であった。

樹齢50年の桜の不定根誘導法による樹勢回復現場では、水苔やピートモスを治療する幹全体に施し、その上から防草シートで覆い、ロープで固定して形成層下部より発根させる方法を取材。自然資材とEM活性液との相乗効果で発根が促進されると長谷川氏は言う。

▲不定根誘導法による樹勢回復を図る樹木医・長谷川芳男氏と
治療中の桜

植木職人への指導にも熱が入る。特に剪定残渣の取扱いでは、枝や葉を細かく裁断して剪定樹木周りに置き、EM活性液を希釈せずに散布して自然循環を確保する。こうすれば余分な費用は掛からないし、自然にも樹木にも良い事ばかりで注目されている。

湘南EMハウスは癒しの空間
神奈川県茅ケ崎市

湘南地区の茅ヶ崎市駅前にある「湘南EMハウス」は、オーナーである藤間 豊氏(U-ネット・理事/関東南部地区世話人)の健康への強いこだわりから生まれ、EMを随所に取入れた鉄筋3階建。敷地にEM活性液を散布し、基礎工事から建屋全てのコンクリート、モルタル、塗料、接着剤にEM資材を取入れ、一階のEM関連商品販売店舗や事務所にもEM珪藻土を使用している。新築特有の臭いも無く、“癒し”の空間が拡がる店内は、常連さんより心地が良いと喜ばれ来客が途絶える事は無い。

◀店先に並ぶ
季節の野菜

◀こだわりの空間が拡がる
「湘南EMハウス」の全景

自ら主宰するNPO湘南フードリサイクルでは市内3小学校の給食残渣を収集し、米ぬか、油粕、魚粉を混ぜ、EM活性液を加え約2ヶ月かけて堆肥化を図る。完熟したEM堆肥は近隣の農家、藤間氏の農園で活用され、ミネラル豊富な旬の野菜栽培には欠かせない。藤間氏の農園では約40種の有機野菜を栽培して「湘南EMハウス」での販売も手掛けているが、EM癒し店舗とEM新鮮野菜は確実に顧客の心を掴んでいる。

独自のEMこだわり生活をする浅間 弘山氏
神奈川県横浜市

浅間弘山氏は自らEM生活を実践する事によって“知識を体験に変え”ながら、その豊富な体験を活かしEMクラブ「GX湘南」の代表理事としてクラブ員の指導や地域の自然回復活動をしている。今回は身近なEM活用法についてお話を伺った。“我家ではEMが生活必需品”と言う浅間氏は、EM発酵液(5倍希釈液)を朝から部屋の空間や壁(珪藻土壁)にスプレーしてウォーミングアップ開始。気持ちが落ち着いて来たところで洗面所、バスルーム、トイレにも“シュッシュッシュ”とするのも日課。必ず空気が和んで気持ちが落ち着くそうだ。床クリーニングもEMで行う為にワックス不要。ピカピカ感に独特の温もりを感じるフローリングは樹木との共生を満喫できる。正に自然との共生でもある。

▲常に新鮮新品感覚の靴。
EMの大変革を体験し感動を共有

このようなEM生活で今一番のお気に入りは、毎日使用している“靴”へのスプレーだ。使用後に靴の表面と内面、底に万遍なくスプレーして自然乾燥させて置けば、翌日は新品を履いた時のような得も言えない感触が蘇る、と言う。更に冬場は足元が温かく感じられるし、蒸れて厭な臭いがする事も皆無とも。EM生活はまだまだ日が浅いものの比嘉先生から「暇が有ったら撒く」事の重要性を諭され、何に於いても“ＥＭシュッシュッシュ”の生活が身に着いて来たと満面の笑みを浮かべる。

▲心身ともにリフレッシュする
浅間弘山氏

U-net通信